

安全データシート (SDS)

作成 : 平成 12 年 10 月 10 日

最新改訂 : 令和 02 年 05 月 19 日

【1.製品名及び会社情報】

製品名 : Tl (Powder, Granule or Piece)

会社名 : フルウチ化学株式会社
住所 : 東京都品川区南大井 6-17-17
担当部門 : 営業部
電話番号 : 03-3762-8161
FAX 番号 : 03-3766-8310
緊急連絡先 : 同上

推奨用途 : 電子部品材料、研究用途、工業用途。
整理番号 : 200519-05Hs

【2.危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険性

自然発火性固体 : 区分外

水反応可燃性化学品 : 区分外

健康有害性

生殖細胞変異原性 : 区分 1B

生殖毒性 : 区分 1A

特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 区分 1 (消化器系、神経系、皮膚)

特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 区分 1 (循環器系、脳・神経系、皮膚)

環境有害性 :

水生環境慢性有害性 : 区分 4

※記載のないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素

シンボルマーク :



健康有害性

注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

- ・ 遺伝性による疾患のおそれ
- ・ 生殖能力または胎児への悪影響のおそれ。
- ・ 消化器系、神経系、皮膚の障害。
- ・ 長期にわたる、または、反復暴露により循環器系、脳・神経系、皮膚の障害。
- ・ 長期的影響により水生生物に有害のおそれ。

注意書き：

<予防策>

- ・ すべての安全注意(SDS など)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 取扱後は手をよく洗うこと。
- ・ 適切な個人用保護具を使用すること。

<応急措置>

- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

<保管>

- ・ 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で施錠して保管すること。

<廃棄>

- ・ 関連法規ならびに地方自治法に従い、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

【3.組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別：	単一製品
化学名又は一般名：	Tl
別名：	—
化学式：	Tl
濃度範囲：	99.9%以上
CAS 番号：	7440-28-0
官報公示整理番号：	—

【4.応急措置】

- ・ 以下のいずれの場合も直ちに医療機関に連絡し、医師または医療機関に適切な指示を求めるとともに速やかに医師の診断を受けられるように手配する。

飲み込んだ場合：

- ・ 直ちに口をすすぐこと。医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合：

- ・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。
- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・ ること。眼球・脛の裏、その他目の細部に至るまで完全に洗浄し、少なくとも 20 分間は行う

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

こと。

- ・ 処置の最中から医療機関での処置に至るまで、被災者に付添人をつける。
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合、気分が悪い場合は、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合：

- ・ 直ちに眼を開き多量の流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続け

予想される急性症状及び遅発性症状：

- ・ 経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐、頭痛、脱力感、脚の痛み、かすみ目、脱毛、情動不安、痙攣、動機。
- ・ 吸入：経口摂取参照
- ・ 皮膚接触：吸収される可能性がある。経口摂取参照。
- ・ 眼接触：発赤

最も重要な兆候及び症状：

- ・ データなし。

その他：

- ・ 暴露の影響は遅れて出ることがある。
- ・ 医師、医療関係者に暴露の状況を伝えるとともに、2次災害を防ぐための注意を通知する。

【5.火災時の措置】

消火剤：

- ・ 粉末消火剤、乾燥砂、二酸化炭素、泡、水噴霧。

使ってはならない消火剤：

- ・ 棒状注水。

特定の危険有害性：

- ・ 火災により、刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火方法：

- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 移動できない場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・ 消火活動は風上から行う。
- ・ 容器内に水を入れてはならない。
- ・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：

- ・ 消火は周囲の安全を確保し、適切な呼吸装置、防護衣などを着用して行う。

【6.漏出時の措置】

人体に対する注意事項：

- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な呼吸装置及び適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- ・ 適切な保護具を着用するまで、破損した容器、漏出した本品に接触してはならない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 漏出物が河川、水路へ流出または地下へ浸透することを防ぐ。

回収・中和：

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

- ・ 粉塵が舞わないように、漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材：
 - ・ 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
 - ・ 漏洩物の粉塵が飛散する場合は水を散布し、飛散を抑える。
 - ・ 廃棄に関しては「13.廃棄上の注意」を参照すること。
- 二次災害の防止：
- ・ プラスチックシートで覆い、散乱を防ぐ。

【7.取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。
- ・ 皮膚や眼、衣服等に付着しないように、保護具、保護設備を使用する。
- ・ 粉塵が発生する場合は密閉化すること。

局所排気／全体換気：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。

注意事項：

- ・ 作業場所では換気を十分に行う。
- ・ 緊急時に備えて、安全シャワーや洗眼の設備を備える。

安全取扱注意事項：

- ・ 使用前に取扱説明書、SDS等入手すること。
- ・ 全ての安全注意(SDSなど)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 適切な個人用保護具(保護手袋、保護眼鏡又は保護面、保護衣等)を着用すること。
- ・ 接触、吸入または飲み込まないこと。
- ・ 粉塵、ヒュームの発生を防ぐこと。
- ・ 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
- ・ 換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。
- ・ 粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 取扱後は手をよく洗うこと。
- ・ 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
- ・ 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 環境への放出を避けること。

混触危険物質との接触回避：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管

適切な保管条件：

- ・ 容器に密閉し、換気の良い乾燥した冷暗所に施錠して保管する。

避けるべき保管条件：

- ・ 日光、熱、酸。

混触危険物質：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

【8.暴露防止及び人に対する保護措置】

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 暴露を防止するため、設備の密閉化又は局所排気装置を設置する。

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

暴露限界値

管理濃度：	労働安全衛生法	未設定
許容濃度：	日本産業衛生学会（2007） ACGIH（2007）TWA	未設定 0.1mg/m ³

保護具：

- ・呼吸用保護具：適切な呼吸保護具を着用すること。
- ・保護メガネ：適切な保護メガネ、顔面保護具を着用すること。
- ・保護手袋：適切な保護手袋を着用すること。
- ・保護長靴：適切な保護具を着用すること。
- ・保護衣：適正な保護衣を着用すること。

【9.物理的及び化学的性質】

外 観：	帯青白色
臭い：	無臭
pH：	データなし
融点／凝固点：	304℃
沸点、初留点と沸騰範囲：	1473℃
引火点：	データなし
発火点：	データなし
燃焼または爆発の範囲：	データなし
蒸気圧：	1Pa（609℃）
蒸気密度：	データなし
比重／密度：	11.8g/cm ³
溶解度：	水に不溶
オクタノール／水分配係数：	logPow=0.23（推定）
分解温度：	データなし

【10.安全性及び反応性】

安全性：	乾燥空气中で安定。 空気中の水分により酸化する。
反応性：	酸と反応する。 ハロゲンと室温で反応する。 加熱するとイオウと反応する
避けるべき条件・材料：	日光、湿気及び水分、熱、酸、ハロゲン。
危険有害な分解生成物：	燃焼により有毒なヒュームが生成する恐れがある。

【11.有害性情報】

急性毒性：	経口	データなし。 参考： 酸化タリウム LD ₅₀ =32mg/Kg（EHC 39, 1984）
	経皮	データなし。
	吸入	データなし。
皮膚腐食性／刺激性：		データなし。
眼に対する重篤な損傷／刺激性：		データなし。
生殖細胞変異原性：		炭酸タリウムを用いた優性致死試験で陽性とされている（EHC39, 1984）。区分 1B。 なお金属タリウムは空気中の酸素、二酸化炭素により炭酸タリ

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

呼吸器または皮膚感作性：	ウムに変化する可能性がある。
発ガン性：	データなし。
	データなし。
	金属タリウムに関する情報はないが、化合物については、EPA が D (ヒト発がん性が分類できない) に分類しており、腫瘍抑制作用がある (EHC39, 1984) との情報、発がん性を示唆する記載 (Lide, 2004) がある。
生殖毒性：	タリウム化合物の摂取が経胎盤性の脱毛症を起こしたヒトの事例がある (ACGIH, 2001)。区分 1A。動物実験では精子への影響、新生児の軟骨発育不全、および授乳を經由しての乳児の脱毛も報告されている (ACGIH, 2001 ; EHC39, 1984)
特性標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)：	胃腸炎、多発性神経障害、脱毛が主要なタリウム中毒の症状とされる(EHC39, 1984)。区分 1 (消化器系、神経系、皮膚 (付属器))。
特定標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)：	循環器系、神経系および脱毛を採ったが、動物実験で脳への影響が記述されている(ICSC, 2002)。 区分 1 (循環器系、脳・神経系、皮膚 (付属器))。
吸引性呼吸器有害性：	データなし。
注意：	使用者は未知の有害性を常に存在するものとして十分な注意を払う必要がある。

【12.環境影響情報】

水生環境有害性(急性)：	データなし。
水生環境有害性(慢性)：	EC50 \leq 100mg/L の情報があるが、金属であり水中での挙動が不明であるため、区分 4 とした。

【13.廃棄上の注意】

残余廃棄物：	廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って、危険有害性のレベルを低い状態にする。 産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
容器：	付着物があることを十分に認識し、洗浄等して廃棄すること。 産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。

【14.輸送上の注意】

- 陸上輸送：消防法および毒物および劇物取締法の規制に従う。
- 海上輸送：船舶安全法の規制に従う。
- 航空輸送：航空法の規制に従う。
- 安全対策：重量物を上積みしない。
輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- 国連分類：クラス 6.1

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

- ・ 国連番号：3288
- ・ 緊急時応急措置指針番号：151

【15.適用法令】

化審法：	—
労働安全衛生法：	名称等を通知すべき危険物及び有害物（タリウム及びその水溶性化合物；法第 57 条の 2、令第 18 条の 2） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（タリウム（粉状のものにかぎる）；法第 57 条、令第 18 条）
化学物質管理促進法（PRTR 法）：	非該当
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	微粉末の場合、危険物第 2 類可燃性固体（微粉末の場合；金属粉、法第 2 条第 7 項別表第 1 に該当する可能性がある）
船舶安全法：	毒物類・毒物（その他の毒物（無機物）（固体）； 危規則第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法：	毒物類・毒物（その他の毒物（無機物）（固体）； 則第 194 条危険物告示別表第 1）

【16.その他の情報】

- ・ 記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではありません。全ての化学製品には未知の危険有害性が有るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定ください。また特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。
- ・ 本データシートそのものは安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものであり、安全の保証書ではありません。
- ・ 製品の形状、状態に対する注意
 - i. 製品名に対し、基本的に形状による物理化学的危険性、健康有害性及び環境有害性の変化が小さいときは、その形状を規定していない場合があります。但し、本文中で形状の変化による危険性、有害性の変化に言及していることもあります。また弊社にて想定していない環境においては、形状の差異により危険性、有害性が高まる場合もあります。
 - ii. 製品名に対し Powder, Granule の表記がある場合は、製品が粉末又は顆粒状であることを意味しています。主に金属の場合には粉末状で、発火や爆発の危険性が高まる場合がありますので、ご注意ください。
 - iii. 製品名に対し、Piece の表記がある場合は以下のような粉末状以外の形状を示しています。但し製品が塊状の場合であっても、保管、取扱いの状況により粉末（粉塵）が発生し、危険性、有害性が高まる可能性があります。形状の変化が起こり得る保管、使用環境が想定される場合には、事前に安全対策を実行してください。
Piece: Chips, Flakes, Chunk, Shot, Sheet, Wire, Stick, Rod, Pellet, Block, Ingot, Target.

参考文献

- ・ （独）製品評価技術基盤機構（NITE）
- ・ 理化学事典 第 4 版 岩波書店
- ・ 化学物質安全性データブック OHM 社
- ・ 化学品安全管理データブック 長瀬産業(株)
- ・ 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- ・ THE MERCK INDEX 12th EDITION
- ・ HSDB
- ・ ACGIH

Furuuchi chemical SDS

No: 200519-05Hs Thallium

- ・ [改定第3版] 緊急時応急措置指針 日本規格協会
-

【改訂履歴】

平成 12 年 10 月 10 日	第 0 版	整理番号 001010-00Ta	新規作成
平成 17 年 07 月 01 日	第 1 版	整理番号 050701-02Ha	情報の追加・訂正
平成 21 年 10 月 01 日	第 2 版	整理番号 091001-02Ar	情報の追加
平成 26 年 06 月 20 日	第 3 版	整理番号 140620-03Hm	GHS 表記への対応等
平成 28 年 06 月 02 日	第 4 版	整理番号 140620-04Hm	安衛法改正への対応等
令和 02 年 05 月 19 日	第 5 版	整理番号 200519-05Hs	住所等の修正
